

平成30年度 ワークセンター夢の樹 就労継続支援B型 事業実績報告書

1 総括

事業再編後2年度目の30年度は、29年度に不十分であった一人ひとりの利用者に焦点をあてた丁寧な支援を最重要課題として取り組んだ。このために最も重要視したものが、支援のPDCAサイクルの実施と職員間での共有である。しかし、上半期の振り返りでは計画の共有や支援経過の組織的な検証など不十分な点が多く、支援計画と日々の支援を関連付けるといった根本的な姿勢が欠如していたといわざるを得ない状況であった。下半期、この反省を基に計画の見直しから実践、評価とその共有を図り、一部改善は見られたものの、施設長含めた意識改革や組織的なノウハウの不足により、多くの課題が残る結果となった。

また、一方で経営面では30年度は試行錯誤の一年であった。報酬単価改定に伴い、自立支援給付費が減額となり、中長期的に安定した事業運営を行うための試算を繰り返し行なった。移行支援との事業分割や生活介護へ一部変更など様々な形を模索したが、施設設置基準の問題もあり、結果的に現行の事業形態のまま利用者数を増やし、スケールメリットで事業を安定化させる方法が最良ということになった。事業形態は変わらなかったが、色々な角度から事業安定化のための検討を行ったことは組織的には大変意義があったと考える。

2 事業概要

- 1) 施設名 ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-5
- 4) 運営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 50人
- 6) 利用現員 70人(平成31年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員
管理者 1名
サービス管理責任者 1名
職業指導員 7名 (常勤換算6.1)
生活支援員 7名 (常勤換算6.0)
目標工賃達成指導員 1名 (常勤換算1.0)

職員グループ別内訳

- ・あかしあグループ
職業指導員 3名 (常勤換算2.3)
生活支援員 3名 (常勤換算2.7)
目標工賃達成指導員 1名 (常勤換算1.0)
- ・みどりグループ
職業指導員 4名 (常勤換算3.8)
生活指導員 4名 (常勤換算3.3)

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援。
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
安心と希望の持てる生活。

- 4 基本方針 生き生きと働ける職場
日中活動の保障
豊かな生活の支援
個別支援計画に基づいた計画的な支援
安心できる将来への支援

5 実施事業

《あかしあグループ》

1) 就労支援事業

- (1) 傘の値付け
- (2) ダイレクトメール封入、封緘
- (3) 小平市報の折り、封入、封緘
- (4) 公園清掃
- (5) 神社清掃
- (6) 入所施設清掃
- (7) 事務封筒製作
- (8) 緑化推進事業

2) 生活支援事業

- (1) 夕方生活支援事業（週3日実施）

3) 行事

(1) 年間計画

- | | |
|-----|-------------------|
| 4月 | 春のバスハイク（東京都葛飾区方面） |
| 5月 | 小平市障がい者運動会 |
| 8月 | 夏のバスハイク（葛西臨海公園） |
| 10月 | 秋の一泊旅行（静岡県浜松市方面） |
| 12月 | お疲れ様会 |
| 1月 | 初詣 |

(2) その他

- 喫茶（月2回）

4) 日 課

開所・送迎	8:30～9:40
朝会	9:40～9:50
作業	9:50～10:50
休憩	10:50～11:00
作業	11:00～12:00
昼食	12:00～13:00
作業	13:00～14:00
休憩	14:00～14:10
作業	14:10～15:10
片付け	15:10～15:15
終礼	15:15～15:20
送迎・清掃	15:20～16:20
作業点検、記録等	16:20～17:00
職員打ち合わせ	17:00～17:30

《みどりグループ》

1) 就労支援事業

- (1) ポスティング作業
- (2) 焼き鳥の串刺し
- (3) 作業マンション清掃
- (4) 事務封筒製作
- (5) 緑化推進事業

- (6) 空き缶つぶし
- (7) ダイレクトメール封入・封緘
- (8) 公園清掃
- (9) 資源回収

2) 生活支援事業

- (1) 生活支援プログラム (週3日実施)
- (2) 夕方生活支援事業 (週3日実施)

3) 行事

(1) 年間行事

- 4月 永年勤続表彰式
- 5月 小平市障がい者運動会
- 6月 多摩動物公園
- 7月 カラオケ
- 8月 川遊び、みんなの音楽会
- 9月 外食、ドライブ (多摩湖方面)
- 10月 秋の一泊旅行 (埼玉県飯能市方面)
- 11月 国立天文台見学
- 12月 ビンゴゲーム大会
- 1月 ふれあい下水道館見学
- 2月 カラオケ
- 3月 スポーツ大会 (小平市中央体育館)

(2) その他

音楽教室 (月2回)

4) 日 課

開所・送迎	8:30~9:00
朝礼	9:00~9:20
準備	9:20~9:40
作業	9:40~10:40
休憩	10:40~10:50
作業	10:50~11:50
休憩	11:50~13:00
昼礼	13:00~13:10
作業	13:10~14:10
休憩	14:10~14:20
作業	14:20~15:20
実績票記入	15:20~15:30
終礼・お茶	15:30~15:40
送迎・清掃	15:40~16:30
作業点検・記録等	16:30~17:00
職員打ち合わせ	17:00~17:30

6 重点課題・目標

1) 活動

《各グループ共通》

(1) 作業収益の増加

【成果と課題】

就労支援事業収入は前年度の約1,460万円と比較し、150万円減額の約1,310万

円となった。この主な要因は、受注作業で6月以降、小平市報の折り込み作業が減り、約90万円減額したこと、また、昨年度は大口のダイレクトメール約40万円の収入があったが、今年度は同様の作業の発注依頼がなかったことと資源回収の回収量減に伴い20万減額したことである。

事業再編を行った29年度は、就労会計の運転資金としてプールしてきた収支差額480万円を年度末に支給した結果、月額平均工賃は18,022円となった。これに対し30年度は14,805円で、前年度比3,217円減額となったが、一時金480万円の支給を除いて計算すると、29年度の月額平均工賃は12,287円となり、2,518円増額したことになる。

《あかしあグループ》

(1) 一人ひとりの利用者のニーズに沿った支援の実施 (支援のサイクル)

- ① 支援計画の共有とそれに基づく支援実施。
- ② 支援経過の記録と情報共有
- ③ 意見交換等による支援経過の検証
- ④ 必要に応じた計画の見直し

(想定されるニーズ)

- ⑤ 健康に関する問題
- ⑥ 精神的な安定に関する問題
- ⑦ 作業に関する問題
- ⑧ 身体的な機能に関する問題 等

【成果と課題】

上半期の振り返りにおいて、個別支援計画における利用者一人ひとりの支援目標が抽象的なものが多く、日常生活との関連性が分かりにくいこと、また、支援目標の達成度の検証がしにくいなどの課題があげられた。また、利用者の状況や各職員の支援状況はミーティング等で共有されているものの、前述のように計画そのもの問題から、職員間での支援方針の統一が不十分などの課題が見えてきた。このことはケース記録の記載にも現れ、支援計画に沿った記録も不十分なものであった。下半期に、この反省を基に、まず支援計画の根本的な見直しを図った。形骸的、また実際の状況を踏まえてないものの修正を行い、現状を踏まえた具体的な目標の設定に取り組んだ。これにより、計画そのものは改善が図られたが、職員間の共有や意識はあまり改善が見られず、支援方針の統一に基づいた実践や記録は上半期と同様の課題が残った。

(2) 自助具の開発、道具の工夫等による作業支援

一人ひとりの機能を補完し、作業の効率や正確性の向上を行うための道具の活用や自助具の開発に取り組む。

【成果と課題】

自助具については、4点を作成した内、1点は効率的に作業を行えるようになり、利用者からも好評で継続して使用している。3点は効果がなく使用を中止することとなった。

- ・丁合したダイレクトメールをきれいに積み重ね、簡単に持ち運びが出来るために型を作成した。(対象利用者21名)
→現在使用中。(丁合後のダイレクトメールをきれいに積み重ねることが出来、持ち運びも楽だと声が上がり、使用している。)
- ・ダイレクトメールのシールを正しい位置に貼るために型を作成し、正確な位置をわかりやすくした。(対象利用者2名)
→効果がなく、現在使用していない。(1名は作業効率が上がらないため使用中止。1名は作業の負担軽減にならずに作業を中止。)

- ・ダイレクトメールの封緘作業の際に正しい線で蓋を閉じるため、型を作成した。(対象1名)
→効果がなく、現在使用していない。(速度も正確性も逆に低下したため使用中止。)
- ・ダイレクトメールの封入作業の際に封筒の口を開いておくため、止め具を作成した。(対象者3名)
→効果がなく、現在使用していない。(3名とも使いづらいと声があり、使用中止。)

(3) 安定した作業提供

利用者の作業が途切れないよう受注先と密に連絡を取り、計画的に作業を受注する。

【成果と課題】

発注業者に、1つの作業が終了する前に次の作業を要請することにより作業を途切れることなく受注することができた。年度途中で職員の入退職があり、作業スピードや作業管理能力が一時的に低下したことから、作業効率さが下がることとなったが、これについては、年度後半に職員の作業経験とともに徐々に改善してきている。

《みどりグループ》

(1) 利用者一人ひとりの職業キャリアの形成

- ① 支援計画書を基に作業技術の向上と可能性の伸長を支援する。
- ② 達成目標の提示、達成度の評価などの動機づけを丁寧に行い、意欲の向上を支援する。
- ③ 作業への取り組みを通じ、やりがいや責任感など職業人としてキャリア形成を支援する。

【成果と課題】

- ① 支援計画に基づくPDC Aサイクルの実施とその職員間の共有についてはあかしあグループと同様の課題が残った。しかし、室内作業においては、継続的な作業指導により、新しい作業工程の習得や作業スピードの向上など、6名程度の利用者のスキル向上が見られた。また、全般的に新しい作業にチャレンジするなどの意欲の向上も見られた。
- ② 朝礼時に作業目標を提示し、終礼にて達成度合いを確認した。また、集中力が途切れてしまう利用者や作業の見通しが不安になる利用者に対しては、個別の説明や視覚によるアプローチ等を行った。このことが、利用者の達成感や作業意欲の向上につながったと感じている。
- ③ 商品の大切さや報酬との関連などを利用者に丁寧に説明をすることにより、商品の取り扱いや失敗をしないようになどの意識の向上が見られた。また、作業中には、作業の進捗状況の報告やわからない時には質問をするなどの指導を徹底することで、仕事に対する姿勢についても良い緊張感を感じられるようになった。

(2) 安定且つ多様な作業提供

計画的な作業受注や新規開拓を行い、働く機会の保障とともに一人ひとりの可能性の発見に努める。

【成果と課題】

7月に室内作業1種類が中止となり、9月末時点で主な作業は室内2種類と屋外の資源回収となった。新たな作業種を取り入れるため、内職系の近隣業者を50社程度リストアップし、その中で受注の可能性があると思われた6件中4件に連絡を行ったが、現在は新たな事業所との取引を行わないとの回答があり新規受注先を増やすことはできなかった。年間を通して作業が途切れることなく受注を行えたが、これまでの作業を継続した形となり、新たな発想で一人ひとりにあうと思われる作業の検証は行えなかった。

(3) 行事や余暇支援により、豊かな生活を支援する。

【成果と課題】

36名の内30名程度が月に1回行うレクリエーションに毎回参加した。また、参加が少ない利用者からは希望の内容を聴取し、多くの利用者が参加出来るように取り組んだ。週3日程度実施している作業時間終了後の余暇支援（夕方生活支援事業）は36名中20名程度が希望日に参加しており、本人また家族から好評を得ている。

(4) 様々な生活上のニーズへ対応する。

利用者からの相談や状況の観察により、ニーズの把握とその対応に努める。

【成果と課題】

利用者34名と個別面談を実施し、利用者からの希望聴取や、家族に事業所での様子を伝えるとともに、家庭での様子について確認を行った。利用者からの相談では人間関係に関するものが多く、活動中の作業空間を分離することや随時話を聴くことなど対応を行った。また、家族からは、現在の生活を維持したいとの話が多く、現在の活動を継続するという方針を互いに確認した。

2) 人材育成

《各グループ共通》

(1) 施設長

- ① ケース記録、報告書等の記録作成について、自己のスキルと指導力の向上。
- ② 行動観察等により職員の適性を把握する力の向上。
- ③ 職員の発言や提案に対して、その評価を丁寧に行い、施設として取り組むべきものについては、施設長として責任を持って全体への周知徹底を図る。

【成果と課題】

- ① ケース記録の指導においては、指導のポイントがつかみ切れていないように感じている。また、自分の1日のスケジュール管理が出来ていないことが影響し記録確認の頻度も少なく、十分に行えなかった。
- ② 年間を通して、職員への関与が不十分であったと感じており、事業所で取り決めた遵守事項が徹底されているか、支援計画に沿った支援が実践できているか等について自分自身の意識が希薄であった場面が多くあり、課題が残った。
- ③ 職員の発言、提案等の評価について、職員へのフィードバックを意識し実施したが、自分自身が気付かずに見過ごしている場面があったのではないかと感じている。

《あかしあグループ》

(1) グループリーダー

- ① 各職員の行動に関心を持ち、事業方針に沿った指導や意見を行う。
- ② 活動全体を視野に入れて業務を行う。
- ③ 現場職員と施設長の橋渡しの役割を担うと共に、グループ間の情報共有を密にとる。
- ④ 利用者家族と連絡調整を通じて、信頼関係を構築する。

【成果と課題】

- ① 作業や利用者支援に関しては職員とコミュニケーションを図りながら、事業の方針に従い職員への指導が徐々に行えるようになってきている。
- ② 個々の利用者状況や日常の活動全般を把握しており、日中活動と事務の業務のバランスも保ちながら業務を行うことが出来た。
- ③ 施設長からの指示や事務連絡を職員へ周知することは概ねできていたが、現場の状況や課題など等を施設長に伝える点では不十分であった。みどりグループとの情報共有については、みどりグループのリーダーと意思疎通が良く図られており、職員の相互補完、作業や送迎の協働など良い効果をもたらしている。
- ④ リーダーとして個別面談の同席や利用者家族との連絡調整の業務を多く行なうようにした。直接話す機会が増えたことで、利用者家族からリーダーとしての認知度も高くな

り、徐々に信頼を得ていると感じる。

(2) 全職員

- ① 利用者の心情理解、リスク管理、支援技術など基本的スキルの向上。
- ② 伝達や報告の手法、ケース記録・ミーティング記録の作成など情報共有に必要なスキルの向上。
- ③ 活動内容や支援方法に対して自己の意見を表明し、積極的に事業に関わる姿勢を持つ。

【成果と課題】

- ① 一般的に一つひとつの場面では、利用者一人ひとりの気持ちに配慮した丁寧な支援が行えている。特に利用者間のトラブル防止についても、座席の配置や声かけ等人間関係を考慮した対応が行えた。しかし、転倒等の事故に関しては、通路に物を放置する、床が濡れたまま放置するなど年間を通してリスク管理の意識が不十分であった。
- ② 業務上の伝達、また利用者の状況等についての共有は一般的にレベルが向上している。但し、利用者の支援記録が断片的であり、支援計画との関連が不十分など、課題が多く残った。
- ③ 日常の業務について、年度後半に職員全体から意見が表明され提案が行われることが増えてきている。出された提案等については会議等で検討を行い、事業の改善に繋がっていることも多くある。グループ全体として意見を出し合える雰囲気が少しずつではあるが作られてきていると感じる。

《みどりグループ》

(1) グループリーダー

- ① 各職員の行動に関心を持ち、事業方針に沿った指導や意見を行う。
- ② 活動全体を視野に入れて業務を行う。
- ③ 現場職員と施設長の橋渡しの役割を担うと共に、グループ間の情報共有を密にとる。
- ④ 利用者家族と連絡調整を通じて、信頼関係を構築する。

【成果と課題】

- ① 各職員の行動で気が付いたことなどに関しては、その場で指示や指導を行えた。しかし、その指導が行動マニュアルのようなものになりがちで、意味や目的などを説明することが不十分であった。また、各職員の特性に応じた指導方法などを工夫するという点でも一律的な指導になりがちで不十分であったといえる。
- ② 作業等の活動、事務、個々の利用者の状況などは把握しており、日常活動の指揮統率をバランスよく行うことが出来た。
- ③ 現場の業務を統括しており、また状況に応じた適切な判断も行えている。リーダーとしてグループをまとめており、施設長とのパイプ役は概ね果たしていると評価できる。ただし、施設長への必要事項の報告の遅れと漏れが見られることがありこの点が課題である。また、あかしあグループのリーダーと意思疎通が良く図られており、職員の相互補完、作業や送迎の協働など良い効果をもたらした。
- ④ 利用者家族との連絡調整や個別面談などグループリーダーとして中心に行い、徐々に信頼関係が築けている。

(2) 全職員

- ① 利用者の心情理解、リスク管理、支援技術など基本的スキルの向上。
- ② 伝達や報告の手法、ケース記録・ミーティング記録の作成など情報共有に必要なスキルの向上。
- ③ 活動内容や支援方法に対して自己の意見を表明し、積極的に事業に関わる姿勢を持つ。

【成果と課題】

- ① 利用者の心情の把握に努め、全体的に丁寧な対応を行っており、利用者支援の技術向

上が見られた。また、日中活動で利用者の行動に対して職員間で密に連携を取り、職員の配置を指示し合うことで転倒や衝突などの事故防止に努めた。

- ② ケース記録については、利用者の状況を詳細に記載しているが、支援計画と関連付けた記載になっておらず、上半期の振り返りにて、これが課題として挙げられた。下半期も支援計画と関連付けて支援を行うという意識が事業所全体で希薄であったことから支援計画に関連付いた内容を記録へ反映することが不十分となった。また、ミーティング記録等についても、口頭による伝達に頼りすぎる傾向にあり、全体的に記録作成のスキル向上には至らなかった。
- ③ ミーティング等で作業の効率性や利用者の支援方法について活発に意見が出ており、出された提案等については、職員全体で検討を行い、業務の向上に役立てることができた。

3) 経営管理

《各グループ共通》

(1) 給付費収入から事業種変更の検討

30年度の報酬改定に基づく訓練等給付費収入の試算を行い、中長期的に事業安定運営に必要な資金の確保が可能かどうかの分析を行う。生活介護への事業種変更も視野に入れて検討を行う。

【成果と課題】

30年の報酬改定に伴う給付費減少への対策として、生活介護への一部事業種変更や就労移行支援との事業所の分割について試算を行った。長期的に見れば事業所の分割が最も効率的な事業経営が可能という結果となったが、東京都から施設設置基準により分割の許可が下りず、現在の多機能型として事業を継続することとした。しかし、職員配置に非常勤職員の割合を増やす又、利用者数の増加を行う等の対策を講じることで、経営状態は改善傾向にあり、スケールメリットを生かすことで事業の安定化が図られるという結論に達している。

(2) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

年度を通して月次試算報告は正確に行い、予算も計画通りの執行を行うことが出来た。しかし、上半期は月次試算から見える経営悪化に対して迅速な対策が行えず、前述のような対策は法人からの指摘により下半期以降の実施となった。

《あかしあグループ》

(1) 経費削減を徹底する。

- ① 未使用スペースの消灯等節電の徹底。
- ② 整理整頓により、備品、消耗品等の在庫管理を徹底する。
- ③ 印刷物については必要枚数の確認や、枚数の多いものについては試し刷りを行うなど無駄な印刷を行わないようにする。

【成果と課題】

- ① 活動室の未使用スペースや倉庫の電気の消し忘れが散見された。施設長からその都度注意を行っているが、状況の改善は見られていない。
- ② 備品等の整理整頓が不十分で在庫管理が出来ていない。余計なものを購入するまでにはならないが、整理整頓については改善が必要である。
- ③ 印刷前に書類の確認の徹底を図り、無駄な印刷は防げた。

《みどりグループ》

(1) 経費削減を徹底する。

- ① 未使用スペースの消灯等節電の徹底。
- ② 整理整頓により、備品、消耗品等の在庫管理を徹底する。
- ③ 印刷物については必要枚数の確認や、枚数の多いものについては試し刷りを行うなど無駄な印刷を行わないようにする。

【成果と課題】

- ① 消灯等の節電の徹底が行われている。
- ② 備品の在庫管理が出来ており、消耗品等の無駄な買い物をすることはなかった。
- ③ 印刷前に書類の確認の徹底を図り、無駄な印刷を行わなかった。

4) その他の成果と課題

《あかしあグループ》

(1) 看護師による健康相談の実施

30年度は、新たな試みとして週1回看護師が訪問し健康相談を行った。34名中31名実施することができた(3名は体調不良や日程が合わず未実施。31年度に実施予定)今年度は、まず看護師と利用者が顔合わせを行うことを目標としたが、利用者からは、薬の相談、検査結果に関する説明希望、体調面の相談などがあり、安心につながっている様子が伺えた。

7 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

8 健康管理

定期的に健康診断・身体測定を行い、健康状態の把握に努めるとともに、利用者の家族・保健士等との連携を密にし、健康管理・疾病の予防に努めた。

9 防災計画

災害時避難訓練を年2回、防災訓練を年1回実施した。

10 開所状況

1) 開所期間 自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日

2) 開所日数

- (1) 週開所日数 5日間
- (2) 開所時間 午前8時30分～午後4時
- (3) 年間延開所日数 245日間
- (4) 平均活動時間 7時間

11 利用状況

- 1) 利用者延人員 13,557人(前年度 13,767人)
- 2) 1日平均利用人員 55.3人(前年度 56.2人)
- 3) 体験実習実人員 10人(前年度 5人)
- 4) 体験実習延人員 61人(前年度 23人)

12 利用者状況(平成31年3月31日現在)

1) 年齢

20歳未満	1名		
20歳以上30歳未満	15名		
30歳以上40歳未満	16名		
40歳以上50歳未満	15名		
50歳以上60歳未満	11名		
60歳以上70歳未満	7名		
70歳以上	5名	平均年齢	43.5歳

2) 障害の状況

愛の手帳2度	10名	(内身障手帳所持	1名)
愛の手帳3度	15名	(内身障手帳所持	2名)
愛の手帳4度	18名	(内身障手帳所持	3名、精神保健手帳所持 1名)
身体障害者手帳1級	9名	(内愛の手帳所持	2名)
身体障害者手帳2級	9名	(内愛の手帳所持	1名)
身体障害者手帳3級	4名	(内愛の手帳所持	1名、精神保健手帳所持 1名)
身体障害者手帳4級	2名		
身体障害者手帳5級	3名	(内愛の手帳所持	2名)
身体障害者手帳6級	1名		
精神保健手帳2級	4名	(内愛の手帳所持	1名、身障手帳所持 1名)
精神保健手帳3級	2名		
手帳なし	1名		

3) 通所手段

送迎車利用	19名	(内4名交通機関、1名家族送迎と併用)
交通機関利用	32名	(内4名送迎車両と併用)
徒歩等	22名	
家族送迎	2名	(内1名送迎車両と併用)

4) 居住状況

管内居住	65名	管外居住	5名
------	-----	------	----

5) 性別

男性	57名	女性	13名
----	-----	----	-----

1.3 作業収益及び工賃等

1) 作業総収入	13,141,144円	(前年度	16,793,709円)	
2) 工賃総額	12,137,330円	(前年度	15,084,140円)	
3) 平均工賃	月額	14,805円	(前年度	18,022円)
	日給	895円	(前年度	1,102円)
	時給	245円	(前年度	300円)

1.4 生活支援プログラム実施状況

1) 実施日数

(1) PG実施日数	122日
(2) 週平均実施日数	2.3日

2) 利用者(平成31年3月31日現在)

(1) 利用者数	1人
(2) 利用者延人数	122人

3) 支援者(平成31年3月31日現在)

(1) 職員	3人
(2) アルバイト	8人
(3) 職員延人数	8人
(4) アルバイト延人数	116人

4) 内容

(1) ウォーキング	78回
(2) プール	44回

1.5 夕方生活支援事業実施状況

1) 参加者	実29名	(内親の会利用者	5名)
--------	------	----------	-----

2) 延べ 452名 (内親の会利用者 50名)

3) 延実施回数: 137回

4) 月別実施状況

実施月	実施回数	延参加人数
4月	: 11回	38人 (内親の会利用者 1名)
5月	: 9回	37人 (内親の会利用者 4名)
6月	: 11回	38人 (内親の会利用者 4名)
7月	: 12回	39人 (内親の会利用者 1名)
8月	: 11回	35人 (内親の会利用者 4名)
9月	: 11回	34人 (内親の会利用者 2名)
10月	: 12回	39人 (内親の会利用者 7名)
11月	: 11回	37人 (内親の会利用者 5名)
12月	: 13回	40人 (内親の会利用者 7名)
1月	: 12回	38人 (内親の会利用者 5名)
2月	: 13回	40人 (内親の会利用者 5名)
3月	: 11回	37人 (内親の会利用者 5名)

5) 内容別実施及び参加状況

内容	実施回数	延参加人数
さんぽ	9回	11人
ボウリング	23回	146人
プール	21回	11人
パソコン	12回	18人
カラオケ	23回	149人
お風呂	15回	40人
ゲームセンター	2回	11人
料理	13回	45人
テーブルゲーム	3回	3人
カードゲーム	5回	7人
ドライブ	5回	1人
すいか割り	1回	3人
初詣	1回	0人
スポーツ	4回	7人